

## 新潟県高等学校教育研究会 商業部会

新潟県立吉田高等学校  
教諭 相田和彦

1 期 日 平成29年11月10日(金)

2 会 場 燕市産業史料館

3 参 加 9校 14名

4 日 程

受 付 9:30~10:00

開 会 10:00~10:15

研究協議 10:15~11:30

指導講評 11:30~12:00

施設見学 13:00~13:30

講 演 13:40~15:50

質疑応答 15:50~16:00

閉 会 16:00~16:15

5 研究協議

(1)「ビジネス分野」科目の各校での実施状況および、  
学校設定科目などの独自の取り組みの状況について

参加校よりカリキュラムの説明と各校の問題点など  
報告があった。



(研究協議の様子)

(2)「ビジネス分野」科目の授業における独自の教材  
や取り組みなどについて

新潟商業「新商コラボ」、長岡商業「CAT」、高田

商業「リッカ」の取り組みについて報告をいただいた。

また、三条商業の地域ビジネスに関する取り組みや、  
五泉高校の地域発見コンテストなど外部のコンテスト  
に挑戦している取り組みなどの報告があった。



(3) その他

平成31年10月に新潟で行われる予定である全国  
産業フェアについて、他県での視察報告があり、新潟  
開催に向けて課題等の意見が交換された。

6 指導講評

高等学校教育課指導第2係長 大島博文 副参事

本研究協議会のあり方について指導をいただき、ま  
た新学習指導要領のパブリックコメント、他県の取  
組みなどの報告をしていただいた。

7 施設見学

燕市産業史料館は3つのブースに分かれており、本  
館では和釘、キセル、鍔起銅器など燕の金属産業の起  
源、伝統的金属工芸技術を紹介している。また別館で  
は、燕市出身の故丸山清次郎氏が半生をかけて収集し  
た煙管、煙草入れ、矢立のコレクションが展示されて  
いる。



(施設の外観)

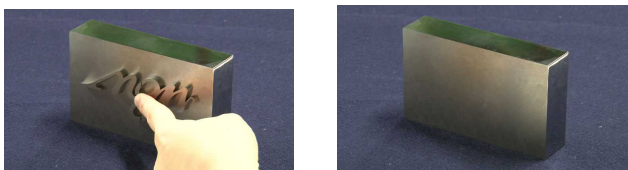
新館では、日本の金属洋食器の歴史やハウスウェアが展示されている。全館とおして燕市の伝統工芸の歴史から世界的に評価の高い洋食器に至るまでを見ることができた。

## 8 講演

演題 「燕三条から発信するグローバル」

講師 株式会社MGNET 武田 修美 様

金型製造がどれほど高度で精密な技術が用いられているのかを広く知ってもらうために作られた「文字が金属に吸い込まれ、一つの金属片になるオブジェ」(以下の写真)の動画が話題となり、メディアにも取り上げられた。現在は地元の燕と代官山にも店舗を持ち活動するなかでも、「燕三条」の地場産業である工場や製品を紹介するイベント「工場の祭典」の実行委員長も努め、その評価は日本内外でも賞賛を受け、多くの賞を受賞している。



家業で製造してる「金型」が洋食器などを作る際に重要な物であることが分からず、形に見えない物に価値や意味を見いだせず、家業には就かず、高校卒業後、ビジネス系の専門学校に進み、その後は自動車メーカーのセールスマンをしていた。しかし、大病を患い、仕事を辞め迷いもあったが家族の支えもあり、家業である「金型」の仕事の手伝いを始めることになる。そして家業の仕事をとおして燕三条で生産される物品に「金型」がとても重要であるこ

とに気づき、その価値を人に知ってもらいたいと考えるようになったという。

そして「文字が金属に吸い込まれ、一つの金属片になるオブジェ」がきっかけとなりSNS等で世界的に燕三条のものづくりの技術力の高さを示すことができた。

現在ではMGNETという会社を燕市と、東京の表参道にも設立し、「モノにエンターテインメントを」というフレーズを掲げファッションや音楽、放送、ツーリズムといった「ものづくりからまちづくり」までを仕事として次世代製造業を創造している。

MGNETの仕事をとおして、地元地域から都市部や世界に発信し、地元地域を紹介することにより、地域の活性化につながる、地域発信のグローバル(グローバル+カルチャーの造語)を実践しているという。



(講演会の様子)

MGNETという社名にも地元地域と日本国内外をつなげる役割を示しているように思われた。

最後に伝えたいこと「技術」を伝えるように「デザイン」することが大事であるとお話いただき、私たち教員の仕事にも通じるところがあると感じた。